

中部地区医師会立 ぐしかわ看護専門学校

情報提供等への取り組みに関するガイドラインの項目と取り組み

1. 学校の概要、目標及び計画

<学校の教育理念及び目標、特色>

ぐしかわ看護専門学校は、建学の精神である沖縄の博愛精神（イチャリバチョデー）、互助精神（ユイマール）を受け継ぎ、生命の尊厳（命どう宝）を基盤とする豊かな人間性を養い、すべての人々の健康と幸福のために行動する能力を培い、地域医療に貢献できるとともに国際社会の諸活動へも積極的に参加する姿勢を持って、看護の発展に寄与する人材を育成することを目的としています。

・一人ひとりを支援するチューター制

一学年5人の教員それぞれが学生を担当し、個別指導に力を入れることができます。授業は協同学習を取り入れ、学生の主体的な学びを育み、グループ学習を通して常に相手の立場に立ってものごとを考え、どう行動したら良いのか判断できる力を養います。

・学科・実習ともに充実した学習環境

緑豊かな自然環境の中で駐車台数280台を有する広大な敷地や食堂、講堂、図書室、看護スキルラボ室、セミナー室等を設け、学生がのびのびと明るいきャンパスライフができるよう学習環境を整えています。

・万全の国家試験受験対策

国家資格の取得には、必ず受験対策が必要になります。看護師合格のために模擬試験や国家試験対策講義を徹底して行います。国家試験1ヶ月前には、学力別、領域別講義など、全教員が総力で対策を集中して行います。

・自律した社会人育成

看護師は、専門的知識だけでなく変化する社会状況に対応し得る豊かな人間性、高い倫理観を備えることが求められます。社会人にふさわしい社会的な行動様式は、日常的な取り組みによってはじめて身につきます。挨拶を励行し、服装・身なりの指導、時間や提出期限の厳守等、日頃から意識的に望ましい行動様式を実践し、身につけます。

・地域貢献・開かれた学校づくり

ぐしかわ看護専門学校では、看護の専門知識・技術を身につけるだけでなく、学校全体で取り組む学校行事も満載です。ボランティア活動も学校全体で取り組み、地域の老人会との交流会、近隣の高校生の学校訪問など、地域に密着した学校づくりをめざしています。

<学校名、校長名、所在地>

学校名 中部地区医師会立 ぐしかわ看護専門学校

校長 徳森 朝子

所在地 沖縄県うるま市昆布長尾原 1832-1

連絡先 TEL 098-972-4600

FAX 098-972-4610

<学校の沿革>

2007年 12月 ぐしかわ看護専門学校が看護師養成施設看護学科の認可を受ける

2008年 4月 中部地区医師会立ぐしかわ看護専門学校 開校

2. 学科の教育

<定員数>

【看護学科 3年制】 1学年80名 定員 240名

<カリキュラム>

1年次

	授業科目		必修・選択	単位数	時間数
基礎分野	科学的思考の基礎	論理的思考法	必修	1	30
		情報科学	必修	1	30
		教育学	必修	1	30
	人間と生活 社会の理解	生命と倫理学	必修	1	30
		社会学	必修	1	30
		心理学	必修	1	30
		人間関係論	必修	1	30
	英語 I	必修	1	30	
専門基礎分野	人体の構造と機能	身体のしくみ I	必修	2	60
		身体のしくみ II	必修	2	45
		生化学	必修	1	30
		栄養と健康	必修	1	30
	疾病の成り立ちと 回復の促進	微生物学	必修	1	30
		病理学	必修	1	15
		病態生理学 I	必修	2	45
		病態生理学 II	必修	1	30
		病態生理学 III	必修	1	30
	薬理学	必修	1	30	
健康支援と社会保障制度	現代医療論	必修	1	15	
専門分野 I	基礎看護学	看護学概論 I	必修	1	30
		看護学概論 II	必修	1	30
		基礎看護学方法論 I	必修	1	30
		基礎看護学方法論 II	必修	1	30
		基礎看護学方法論 III	必修	2	45
		基礎看護学方法論 IV	必修	2	45
		基礎看護学方法論 V	必修	2	45
		基礎看護学方法論 VI	必修	1	30
専門分野 II	成人看護学	成人看護学概論	必修	1	30
	老年看護学	老年看護学概論	必修	1	30
	小児看護学	小児看護学概論	必修	1	30
	母性看護学	母性看護学概論	必修	1	30
	精神看護学	精神看護学概論	必修	1	30
統合	在宅看護論	在宅看護概論	必修	1	30
合 計				39	1065
実習	基礎看護学	基礎看護学実習 I	必修	1	45
	合 計			1	45
講義・実習合計				40	1110

2年次

	授業科目		必修・選択	単位数	時間数
基礎分野	人間と生活 社会の理解	生活環境論	必修	1	15
		英語Ⅱ	必修	2	45
		レクリエーションとスポーツ	必修	1	30
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	病態生理学Ⅳ	必修	1	30
		病態生理学Ⅴ	必修	2	45
	健康支援と 社会保障制度	公衆衛生学	必修	1	30
		社会福祉学Ⅰ（社会福祉）	必修	1	15
		社会福祉学Ⅱ（社会保障）	必修	2	45
専門分野	成人看護学	成人看護学方法論Ⅰ	必修	2	60
		成人看護学方法論Ⅱ	必修	2	45
		成人看護学方法論Ⅲ	必修	1	30
	老年看護学	老年看護学方法論Ⅰ	必修	2	45
		老年看護学方法論Ⅱ	必修	1	30
	小児看護学	小児看護学方法論Ⅰ	必修	2	45
		小児看護学方法論Ⅱ	必修	1	30
	母性看護学	母性看護学方法論Ⅰ	必修	2	45
	精神看護学	精神看護学方法論Ⅰ	必修	2	45
		精神看護学方法論Ⅱ	必修	1	30
統合	在宅看護論	在宅看護論方法論Ⅰ	必修	2	45
小計				29	705
臨地実習	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅱ	必修	2	90
	成人看護学	成人看護学実習Ⅰ-1	必修	4	30
		成人看護学実習Ⅱ-2	必修		150
	老年看護学	老年看護学実習Ⅰ	必修	2	90
小計				8	360
合計				37	1065

3年次

	授業科目		必修・選択	単位数	時間数
基礎	人間の生活社会の理解	文化人類学	必修	1	15
専門基礎	健康支援と社会保障制度	看護関係法令	必修	1	15
専門Ⅱ	母性看護学	母性看護学方法論Ⅱ	必修	1	30
統合分野	在宅看護論	在宅看護論方法論Ⅱ	必修	1	30
		看護活動と管理	必修	1	30
		医療安全	必修	1	30
		看護技術の統合	必修	1	30
	看護の統合と実践	卒業論文	必修	1	30
小計				8	210
臨地実習		成人看護学実習	必修	2	90
		老年看護学実習	必修	2	90
		小児看護学実習	必修	2	90
		母性看護学実習	必修	2	90
		精神看護学実習	必修	2	90
		在宅看護論実習	必修	2	90
		統合実習	必修	2	90
小計				14	630
合計				22	840
授業・実習総時間数				99	3015

(年間計画)

前期	4月～9月		
1年生	基礎看護学実習Ⅰ	11月	
2年生	基礎看護実習Ⅱ	5月	
3年生	領域実習	5月～7月	
3年生	事例研究発表	8月	
後期	10月～3月		
3年生	領域実習	9月～10月	
3年生	統合実習	11月	
2年生	成人看護学実習1-1	12月	
3年生	看護技術の統合 (OSCE)	12月	
2年生	成人看護学実習1-2	1月～2月	

(進級・卒業の要件及び評価基準)

評価基準：筆記試験、実習評価は、優、良、可、不可の成績評価を行い、可以上を合格とする。

卒業・進級基準：所定の授業科目の単位の認定を受けた者について、会議の議を経て認定とする。

3. 教職員

<教職員数>

- ・校長 1名
- ・教務部長 1名
- ・事務部長 1名
- ・実習調整者 1名
- ・専任教員 18名
- ・実習指導教員 2名
- ・事務職員 5名

4. キャリア教育・実践的職業教育

<キャリア支援への取り組み>

認知症サポーター

<実習への取り組み> 2018年度

授業科目名	時間数	単位	年次	実施期間
基礎看護学実習Ⅰ	45 時間	1 単位	1 年次	11 月～12 月
基礎看護学実習Ⅱ	90 時間	2 単位	2 年次	5 月
成人看護学実習 1-1	30 時間	4 単位	2 年次	11 月～12 月
成人看護学実習 1-2	150 時間			2018 年 1 月～2 月
老年看護学Ⅰ	90 時間			
成人看護学実習Ⅱ	90 時間	2 単位	3 年次	前期 5 月～8 月
老年看護学実習Ⅱ	90 時間	2 単位		
小児看護学実習	90 時間	2 単位		
母性看護学実習	90 時間	2 単位	3 年次	後期 9 月～11 月
精神看護学実習	90 時間	2 単位		
在宅看護論実習	90 時間	2 単位		
統合実習	90 時間	2 単位		
	1035 時間	23 単位		
<p>・実習の目的</p> <p>学校で学んだ知識と技術を活用し、あらゆる健康段階にある対象に応じて科学的根拠に基づく看護実践を行うための基礎的能力を養っていく。また、実習時間を有効に活用し、チームの一員としての役割と責任を理解し行動できるよう効果的な実習を目指す。</p>				
<p>・実習施設との連携の基本方針</p> <p>学校で学んだ知識・技術の実践として、臨地実習を配置していることから、学校と臨床現場の相互の理解の基に臨地実習が可能な施設を選定している。</p>				
<p>・実習施設との連携内容</p> <p>実習指導体制として</p> <p>①学内における実習指導・・・担当教員が指導を行う。</p> <p>②配属先における実習指導・・・承諾いただいた実習施設の指導担当者指導者および担当教員が指導を行う。</p>				
<p>・学修成果の評価</p> <p>評価の方法としては、①担当指導教員からの評価 ②実習先実習指導者からの評価 ③自己評価以上の3つの内容から総合的に勘案して、4段階で最終的な評価を行う。</p>				
実習・演習等の計画				
日程	実習・演習等の内容			実習場所
1 日目	オリエンテーション 受持ち患者の選定、情報収集			当該実習施設
2～4 日目	情報収集、看護問題の明確化 看護計画の計画立案、実施、評価			当該実習施設
5～8 日目	ケースカンファレンス 看護問題および看護問題の優先順位の修正 社会資源の理解および情報提供 中間のふり返り			当該実習施設 学内
9～11 日	実施した計画の評価 施設の他職種との協働・連携の見学 実習関連部署の実習（外来部門・地域連携室・集中治療室他） *実習の展開は、領域の特徴から日程の変更がある。			当該実習施設
12 日目	ふり返り・学習のまとめ			学内

連携する実習施設	中頭病院 ハートライフ病院 ちゅうざん病院 中部徳洲会病院 沖縄病院 沖縄中央病院 県立中部病院 県立南部医療センター・こども医療センター うえむら病院 新垣病院 琉球病院 中部地区医師会成人病検診センター 中部地区医師会訪問看護ステーション 介護老人保健施設おきなわ徳洲苑 すくすく保育園 うるま市地域包括支援センター 沖縄中部療育センター 他 総数 85 施設
----------	---

<就職支援への取り組み>

県内医療施設の就職説明会の開催、県内外医療施設の求人案内の閲覧する就職・進学関連資料室の設置、就職相談等学生支援室の設置等を行い、就職・進学をサポートします。また、履歴書作成から面接の練習や小論文対策迄個別指導します。

進学希望者の支援は、受験の心構え、受験対策など、県内進学した卒業生との交流の機会を設けています。

5. さまざまな教育活動・教育環境

<学校行事>

- ・ホームページに掲載あり

<課外活動>

- ・学生会活動
- ・学校行事に関する各実行委員会活動
- ・ボランティア活動

掲示されたボランティア募集を学生自身が申込み、活動しています。

6. 学生の生活支援

<学生への支援状況>

各学年に5名のチューターがいることで、学生個別の面談の計画的実施で、学習指導や生活面の悩みも気軽に相談でき、きめ細かい個別対応ができます。また、スクールカウンセラーによるカウンセリング、保護者との連携・協力体制の構築を行い、学生の成長を支援していきます。

7. 学生納付金・修学支援

<学費について>

年次	授業料等納付金
1年次	1,000,000 円 (入学金 300,000 円、施設維持費 200,000 円、実習実験費 100,000 円)
2年次	700,000 円 (施設維持費 200,000 円、実習実験費 100,000 円含む)
3年次	700,000 円 (施設維持費 200,000 円、実習実験費 100,000 円含む)

*上記の納付金のほかに諸経費とし教科書代、実習着代、学生損害保険料、学生会費、後援会費などは別途実費負担です。

<修学支援について>

- ・日本学生支援機構奨学金制度
- ・沖縄県看護師修学資金
- ・中部地区医師会奨学金

年間を通して学業に励み、人物・成績ともに他の学生の模範となる優秀な学生に対し、学納金の一部を免除します。

8. 学校の財務

下記アドレスにて(ぐしかわ看護専門学校ホームページ)情報公開

<http://www.chubu-ishikai.or.jp/gushikan/>

9. 学校評価

＜自己評価・学校関係者評価＞

下記アドレスにて(ぐしかわ看護専門学校ホームページ)情報公開

<http://www.chubu-ishikai.or.jp/gushikan/>